（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立八代工業高等学校（全日制）　令和元年度（２０１９年度）学校評価表

１ 学校教育目標

（１）地域に愛され、地域とともにある学校づくり
（２）ものづくり教育と部活動を通した人格形成
（３）基礎学力と基本的生活習慣の充実・定着による進路実現
（４）常により良いものへと向かう姿勢の育成　【NEXT　ONE】

２ 本年度の重点目標

本校の校訓「誠実」を基柱とし、教育庁の平成31年度(2019年度)「教育指導の重点」並びに「取組の方向」に則り、家庭、地域、学校が連携・協力により、生徒の「夢実現」に向けた教育活動を推進・充実し、生徒の「生きる力を」を育成する。
①学力の定着向上と教育相談の充実による進路保障　②専門教育の充実
③部活動の推進と適正化　④本校の魅力発信
⑤安全教育並びに危機管理の充実　⑥校務整理と業務改善

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教育目標と重点を説明し、教職員・生徒は9割、保護者は8割以上の認知度を目指す	職員会議、全校集会、ＰＴＡ総会、学年保護者会、三者面談、学校新聞等で本年度教育方針等の説明	B	教育目標や重点目標の理解度はアンケート結果から保護者92％、生徒88％で、残念ながら生徒は9割に及ばなかった。今後も積極的な広報を行い、更なる周知徹底を図りたい。
	学校マネジメントの充実・強化(組織的活動の確立)	各部、各科の目標達成に向けたマネジメントの確立	各部・科での役割認識と組織の一員としての使命感と自覚	定期的に各部・科の連絡会を開催し、目標達成に向けた進捗状況と今後の対策の確認	B	部会等が定期的に開催され、その職責を認識し、業務の遂行が出来ている。年度末には各分掌での課題や次年度の取組事項を全職員で情報共有している。
	教育環境(施設・設備)の充実と積極的な活用	実践的で教育効果があがる教育環境整備	実習内容の充実と高度化への施設設備検討	既存の機械設備等により指導内容を向上させ、技能の向上を図る	B	各種検定やコンテスト、体験入学等へ対応するため、現有設備を有効活用し生徒の技術や技能の向上を図ることができた。
		働きやすい環境整備	週１回、身の回りの環境整備を実施	職員室・各管理室の清掃・整理整頓の徹底	B	清掃活動は毎日実施している。整理整頓については、その都度確認しているが、個人差がある。今後も更なる徹底が必要である。
		現有する施設・設備の活用と点検	施設・設備の安全点検と整理整頓の徹底	学期毎に施設設備の安全点検簿の提出	B	安全点検については、各科・各教科等において、定期的に行っており、整理整頓の他、安全教育にも力を入れている。
学力向上	授業の充実（わかる・わかりやすい授業の実施）教職員の授業力向上	生徒の実態と理解度の把握、学習意欲を引き出す工夫	基礎学力の確実な定着と目標達成に向けた学力向上	授業時数の確保、年間授業計画を学期、月毎にチェック 成績不振者への補習の実施、考査前・考査中の部活動中止	B	定期考査間の時数均一化の観点で授業計画を作成・点検した。２週分の時数差が生じている科目もあることから、曜日・時限まで考慮した調整が必要である。考査前の部活動練習休止は共通認識で取り組んでいただけた。補習は、基礎学力の定着のためにも、中間考査でも実施する必要性を感じる。各個人・各工業科で授業改善に取り組まれている。参観の呼びかけ以外の方策が必要である。
			授業力向上への研究授業の実施（ＩＣＴ機器活用・アクティブラーニング等）	生徒による授業評価アンケートの実施（理解度調査）、各教科１回以上研究授業、公開授業週間、生徒参観週間		
	工業の各分野に関する基礎・基本的な知識と技術の習得	知識と技術の向上に向け、技能検定や国家資格等に挑戦	ｼﾞｭﾆｱﾏｲｽﾀｰ認定者数100人以上、全国上位校入り	資格検定試験の精選、学科と学年が連携した継続的指導、課外(朝・長期休業中)の実施	A	学年・進路指導部・工業科主任の連携が進み、今年度は科をまたいだ資格や検定の課外授業の受講が可能になった。
	専門的な知識と技術の深化「ものづくりは人づくり」	創意工夫をこらしたものづくり	「生徒研究発表会」「ものづくりコンテスト」等各種コンテスト入賞、こども科学フェアの継続実施	各種大会出場者の徹底指導、学科や学年を超えた指導、指導者の技術力向上に向けた研修会等の実施、学校広報活動の充実	A	「生徒研究発表会」では最優秀賞・教育委員会賞を、「高校生ものづくりコンテスト」では化学分析部門で金賞・銀賞、電気工事部門でも銀賞をいただいた。溶接技術競技とジャパンマイコンカーラリーは九州大会に出場、その他にも技能士優秀合格者２級電子機器組立て技能士・３級機械加工技能士（マシニングセンタ作業）、全国高等学校インテリアデザイン展大川市教育委員会賞、つまようじタワー耐震コンテスト高校生大会準優勝など各科で多くの入賞を果たした。 こども科学フェアの出展内容は毎年工夫を重ねており、今年度も好評であった。
			課題研究の充実	生徒の興味関心に合った研究継続型課題研究の内容検討	A	地域貢献に繋がる「シャッターアート」・「ロケットストーブ」・「プロジェクションマッピング」等、地域の課題を解決する課題研究が増えてきている。各科が工夫を重ねながら、継続性のあるテーマを模索している。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実と強化	保護者・生徒への的確な進路情報の提供と目的意識の啓発	保護者会・学年集会、ＬＨＲ等での進路指導の充実	進路講話（保護者向け、学年ごと）の実施、進路だよりの発行等啓発活動の実施 インターンシップ、工場見学等の実施	A	４月熊本県域進路説明会、７月県内進学バスツアー、１０月八代地域進路説明会、１１月ＰＴＡ工場見学会と、情報を収集できる機会の充実と地域産業の理解に繋がっている。
		きめ細やかなキャリアガイダンスの実施	進路決定率100％の進路希望実現	進路指導部、学年、各学科の連携によるきめ細やかな指導	A	担当者を配置した個別指導が横断的に実施され、２月中には１００％を達成できる。
	高レベルの進路実現(伸ばす教育の実現)	生徒の希望に応える進路指導体制の確立	難易度の高い大学、公務員、企業等への合格者の増加	進学指導体制の充実と進学課外の実施 公務員指導体制の充実と公務員課外の実施 就職指導体制の充実と基礎学力課外(朝課外)の実施	B	国公立大に過去最多の５人を輩出する実績を残した一方、公務員では第一志望を叶えたのはわずかであった。課外はコア・フレックス制により資格取得講座がより充実し、ジュニアマイスター受賞者も過去最多となった。
生徒指導	社会に適応する人間力の育成	・時間、期限、約束、ルールが守られているか ・心のこもった挨拶や言葉遣い、礼儀、マナー、制服の着こなしができているか	・笑顔で明るい挨拶 ・高校生として相応しい言葉遣い、礼儀、マナーを身につけさせる ・清潔感のある服装、着こなしを身につける	・挨拶指導・登下校指導 ・服装指導の定期的な実施と日常指導の充実 ・PTAや地域と連携した生徒指導 ・生徒会活動を通した生徒指導	A	大多数の生徒が、基本的生活習慣を身に付けており、遅刻欠席も少なく概ね良好な学校生活を送っている。制服も着崩したり奇抜な髪型をする生徒は皆無である。ボランティア活動にも積極的に参加する生徒が年々増加している。
	問題行動、交通事故等の未然防止	・特別指導や一般指導件数 ・交通事故発生件数	・特別指導件数の減少 ・交通事故件数の減少	・交通安全講話、携帯電話教室、いじめ防止講座、薬物乱用防止教室	B	特別指導の件数は昨年度と比較してほぼ同数である。携帯電話による指導が増加している。交通事故については増加している。横断歩道横断中の事故が増加しているので危険予知能力を身につけさせることが課題である。

	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	・個々の生徒に応じたきめ細やかな支援や指導がなされているか	・課題を抱えた生徒への組織的な支援体制の充実 ・特別指導の充実	・春秋の交通安全運動の実施 ・日常的な生徒指導の充実 ・生徒指導部会の定期開催 ・個々に応じた特別指導計画の作成と実施 ・SSWやSC、教育相談や特別支援教育担当と連携する。	B	職員研修や部会を定期的に開催することで情報の共有を行い、特別指導や課題を抱えた生徒に対し組織的な支援を行うことが出来ている。しかし、指導が入りにくい生徒への対応など現在のスキルでは対応できない場面もあり、ますます各所との連携を図ることが課題となっている。
人権教育の推進	研修の充実	全職員の実践力向上	・校外研修（年１回以上）参加、校内研修（学期に１回）実施 ・体罰や暴言等防止	・校外研修日程の周知徹底と推進委員会で企画立案と実施 ・全職員対象コーチング研修実施	B	八代地区人権同和教育・人権啓発研究集会への全職員参加を推進し、全日制と定時制で合同の人権に関する職員研修を企画し実施することができた。
	人権教育の充実	全ての教育活動にわたって人権教育を実施	・人権教育に係る、年間計画の作成	・人権教育推進委員でＬＨＲ指導案の原案作成	B	年間計画を作成し、計画的に人権教育を進め、人権感覚の向上を図ることができた。
			・人権に係る講演会を年１回実施	・人権教育推進委員会での企画立案と実施	B	水俣病問題に関する講演会を企画立案、実施し、基礎的な知識を得て様々な人権課題に関する理解を深めることができた。
	命を大切にする心を育む指導	自他を尊重し、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	・いじめアンケートで、いじめや暴力を受けたことがある生徒数の減少	・ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）を継続実施 ・命をテーマにした講演会を学期に１回実施 ・毎月の人権標語作成とあいさつ運動の実施	B	ＳＳＴを継続実施し、入学時の仲間作り、多様な価値観の理解、クラス内の互いを認め合う関係作り等に役立てた。共助部局と共助委員が中心となり、人権意識の啓発につながる標語を毎月作成した。あいさつ運動も毎月実施することができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止と適切な対応	・いじめの認知件数とその解決率の向上 ・スクールサインによる情報提供	・いじめ等に関する情報共有の強化 ・生徒会活動等を通した、いじめを生まない雰囲気づくり ・生徒と教師の信頼関係構築と生徒の相談しやすい環境整備 ・いじめが起きた際の適切な対応	・標語やポスターの募集 ・「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育と生徒の人権に配慮した教育実践 ・本校いじめ防止基本方針に則りいじめ根絶への取組実践 ・重大事態対応マニュアルの整備	B	本年度は１学期に３件、２学期に２件のいじめを学校として認知した。いずれも初期段階で介入することができたので、解決に至っており、認知件数並びにその解決率については一定の成果を上げていると思われる。しかしながら、スクールサインに寄せられた情報やネット上のトラブル等も含めて、表面化していない「いじめ」やトラブルも一部認められている状況がある。
（コミュニティ・スクールなど）地域連携	生徒・保護者・職員による地域連携	防災型コミュニティ・スクールとして地域との連携体制を構築	・地域住民と学校関係者の協力体制を確認 ・避難所運営マニュアルの作成 ・防災をテーマとした探究活動	・学校運営協議会を開催し、具体的な連携体制の確認や避難所運営マニュアルの作成 ・地域と連携した防災避難訓練や防災に関する教育活動の実施	B	学校運営協議会を開催し、連携体制の確認や八代市との取り決めなどを確認することができた。避難所運営マニュアルの確認も行うことができた。 地域と連携した防災避難訓練を計画することができなかった。
	開かれた学校づくりの充実	ものづくりを通した地域貢献や魅力ある教育実践と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底	ＰＴＡ総会は出席率9割以上、文化祭には300人以上の来客者数を実現する	中学生体験入学の実施	B	地域の中学生の参加率は例年同様と考えられるが、人数は減少した。各科の良さを十分に感じ取ってもらい、参加者の満足度を高められる体験入学となるよう、改善できるところがないか。教務・各科が更なる検討をする必要がある。
				教務部、各学科、進路指導部、生徒会等を中心とした広報活動（ＨＰの充実と学校便りの送付等）と積極的マスコミの活用	A	ＰＴＡ広報委員会を中心として、ＰＴＡ新聞の制作を積極的に行うことが、多くの方からその活動と実績に対し、高い評価を得ている。
			教育成果や学校行事の実施状況を年２回中学校等に紹介	学校情報の広報誌制作やホームページの充実、地域のニーズに対応した製品製作等の取組	B	ＨＰによる定期的な情報発信はできていたが、本校の特色を中学校へ十分にアピールすることができていなかった。
特色ある学校づくり	資格検定等の取得や部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	・朝は課外、放課後は部活動に励むメリハリのある学校生活 ・基礎基本を大切に、凡事徹底の実践	各種コンテスト入賞（３位以内）と部活動各種大会での入賞（目標ベスト８以上）	担当者と生徒・保護者との連携（信頼と協力）による指導強化 外部研修含む顧問指導力向上	B	写真部では、来年度全国総文祭の出場資格を獲得している。また、女子卓球部が全国大会出場を果たしている。昨年度より各種大会での入賞者が減少してきており、練習を効果的・計画的に行うことで、生徒・保護者が、満足できる結果を出していきたい。
			生徒の意欲高揚	リーダー研修会を実施し、生徒の自覚と自信を深め、学校の活性化に寄与する人材を育成 資格・大会内容の紹介や合格・入賞結果の報告	C	リーダー研修では、コミュニケーション力の向上を中心として、リーダーとしての自覚を持たせる内容に取り組んだ。アンケートでも全員が来年度の同研修の実施を希望しており、大変充実した研修を行うことができた。 放課後に検定試験等の練習をせざるを得ない生徒もおり、一部の部活動で練習時間を十分確保できていない場面も見られる。 資格・大会内容の紹介や結果発表についてはタイムリーに広報できなかった。
保健安全環境の管理	校内環境整備の充実	整理整頓の意義と意識高揚	学期毎の校内美化週間を実施する	生徒会、管理部主催による美化コンクールの実施	A	美化コンクールは教室内の環境美化向上に繋がっている。また、生徒会による外庭美化指導を試行的に行ったが、生徒の環境美化意識の高揚に繋がったか検証し、来年度の完全実施に繋げたい。
		教室、実習棟、部室等の管理意識の高揚	最低学期に１回、職員及び生徒による安全点検を実施	職員及び生徒による危険箇所等の安全点検の実施	B	職員による安全点検を学期に１回実施し、危険箇所の把握に努めた。
		教職員が率先垂範し、環境に対する責任ある態度	学校版環境ＩＳＯに取り組む	省資源、リサイクル徹底、使用電力と水道の細やかな節減、ごみの削減と分別の徹底	B	今年度からごみ分別項目を増やして実施したが、生徒・職員の協力もあり概ね達成できた。ただし、ごみの総量については増加しているので、ごみ削減について徹底したい。
	心身ともに健康な学校生活の実現	健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康	心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健（病気予防対策等）啓発	生徒、保護者、学校の連携徹底と生徒情報共有化、毎月保健だより発行、外部講師講話の実施 衛生委員会月１回開催	B	養護教諭を中心に三者とは、密に連携ができた。保健だよりも生徒の興味関心をもてるように工夫され発行回数も達成できた。また、衛生委員会の開催目標も達成できたが、協議題等の精選が課題であった。
特別支援教育	特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	必要な生徒の支援計画、指導計画作成、適切な支援を実践	学科、学年と連携しながら全職員共通理解に基づく支援の実施	B	教育相談部会の定期開催やＳＣ、ＳＳＷとの情報共有の機会を設定して職員の共通理解を高めた。周知を要するケースについては該当クラスの授業担当者会を行った
				家庭と学校と専門機関の連携		
		発達障がいや悩みのある生徒の情報の共有化と実践	科会や学年会からの情報を教育相談部会で共有化 全職員による適切な対応策を徹底研究	生徒理解研修会の実施 ＳＳＷやＳＣ等の活用及び専門家による校内職員研修会を実施	B	生徒理解研修を学期毎に実施し、職員の共通理解を高めることができた。県南部発達障がい者支援センターわるつの相談員を講師として招聘し、発達障がいに対して理解を深めることができた。

４ 学校関係者評価

○八代工業高校の努力が、八代工業高校の後期選抜倍率に効果を上げていないことを不思議に思う。先生方、生徒諸君の頑張りが多方面に届くことを願っている。
○進学、就職先ともに良いのになかなか、中学生へのアピールする機会が少なく入学者数を増やすことに苦労されているので、地域と連携したアピールが必要であると考えます。
○生徒のきちんとした制服の着用、挨拶、いつもながら爽やかに感じましたし、校内外の環境美化にも清々しい気持ちで訪問しました。これも先生方の日頃の行き届いた御指導の賜物ではないかと思っております。
○特別指導も少ないとの事で、本当に素晴らしいご指導を頂いていると感じます。資格取得、進学、就職も言う事は全くありません。
○基礎学力の向上が重要であり、その根底は基本的生活習慣である。基礎学力は、自己実現に直結しているので、是非、伸ばしてほしい。基本的生活習慣については家庭教育に因るところが大きい。市教育委員会や県教育委員会の方でも、家庭教育の重要性をしっかり訴えてほしい。熊本市以外の地域では、定員を満たない状況である。定員を実情に応じて減らすなどすれば良いと思う。また、そのような状況ではあるが、教員については多様なニーズに向けて、しっかり人材確保すべきである。
○課題を上げるとすれば、部活動。成果は表れはじめてはいますが、以前と比較してしまえば、少し物足りない感じが致します。
○部活動、他の活動共に立派です。前進、前進。
○他の部活を差別するわけではないのですが、野球部が全国大会に出場する事で校名が高まり、生徒募集での定員達成にも貢献できると思います。その為にも溪烽会から寄贈されたピッチングコートの活用で更に投手力を高めて県予選会を突破してください。
○過去の体育祭で中学校招待リレー等が採用されていましたが、定時制による競技、演舞等での記録は参考として全日・定時制の一体感を考えた定時制生徒の選抜参加は如何でしょうか。
○資格取得に関してもジュニアマイスターの表彰の増加は喜ばしいことですが、それに伴い生徒の授業外での課外等で先生の負担が大きいようであればものづくりマイスター等の外部講師を活用した働き方改革を取り入れてみてはどうでしょうか。また、勤務超過の話もあり、時間が取れず生徒の悩み相談の評価の微減していることから、何らかの関係性が見受けられますので、是非、時間にゆとりが持てるような働き方改革をお願いいたします。
○職員・生徒が一つの目標に向かって歩む姿（学校全体のこと）そこには、一生懸命取り組めば取り組む程、生徒への（職員の気持ち）･･･生徒をおもんばかって･･･苦慮が多々あり、打開策にも並々ならぬ努力がにじみ出ておりました。その中で、一つの分掌だけでなく、同じ悩みが他の分掌にもあり、これらを整理して検討されては如何でしょうか。
○保護者の皆様も、学校行事への取組協力、意欲有りとみました。自由授業参観、定期参観など、「一致協力」を強く感じました。
○学校新聞『くまがわ』を地域の回覧板と一緒に回覧していただくなど学校の情報を発信する方法を増やせないでしょうか。また、本校生徒が地域にいろいろなものを製作し寄贈しているものがありますが、大変素晴らしいことだと思います。せっかくですので、たくさんの方に見てもらう、気づいてもらうことと特に中学生に見てもらえば『八代工業に来ればこんなものが作ることができる』と興味を示すと思います。今まで製作されてこられたものを、MAP化して中学生に配付してみてはどうでしょうか。
○名を上げるために、よい成績を得た事柄を、積極的にマスコミ等へ挙げていく。地域情報誌（例：NAINAI、かじゅめる等）にも記事を積極的に提供していく。有用な作品（例：椅子やベンチ等）を作って市内に置いて、「名」を広める。何を言っても「部活動の活躍」は大切な情報発信である。
○小中学生への更なるアピールをする。学校行事に参加は難しいが、地域（住民自治会）主催の「ふれあい祭り」等に出店する。工業高校として特徴のある出店の仕方があるのではないか。小中学生がたくさん参加している。よく、小学校の夏休みでは「学習会」が開かれる。母校の小学校へ教えるボランティアに出かけてみてはどうだろうか。小学校は喜ばれると思う。遊んでくれればいいのである。
○会社帰宅時に学校正門前を通行しますが、冬の時期は照明不足を懸念しています。部活下校時の夜間照明を現状より改善できないでしょうか。
○現在、国道３号線交差点の石垣植木の間に立っている看板が、見る方向次第で傾斜していて、学校の品位からも心配しています。過去、何度も傾斜は修正されています。今後は、強固な地盤工事で傾斜防止に早急な対策を希望します。
○この素晴らしい生徒さんが一人でも多く、地元八代地域に就職し、地域の活性化に結びつけてほしいと思います。

５ 総合評価

○今年度は定員２８０人を上回る生徒が入学した。生徒募集に向けて、体育祭や文化祭等の学校行事の内容を充実させ中学校や地域への案内を行った。特に体育祭では集団演技の質の向上を図ることができ、地域や卒業生から賞賛の声をいただいた。文化祭ではテクノ広場（ものづくり体験）を実施し、地域のこども達が楽しんで参加できていた。また、中学生体験入学やこども科学フェアなどにおいては、工業高校における「ものづくり」の楽しさを県民に広くＰＲすることができた。また他にも地域のボランティア活動や関係機関等と連携した地域貢献活動を行うなど、在校生も体験的な活動を多くすることによりＰＲ活動に取り組んだ。次年度の志願者数は前年度より減少しており、積極的なＰＲ活動をしていきたい。
○学校目標や重点目標については、重点目標を整理し、理解しやすいものとし、年度当初に教職員へ周知し、合格者説明会、始業式や終業式、ＰＴＡ総会や各学年ＰＴＡ等での話や掲示を行うなど、機会ある毎に周知を行っている。
アンケート調査からは生徒88％（昨年度87％）、保護者92％（昨年度92％）と昨年度と比べ、生徒の理解度が若干高くなっている。職員はもとより生徒と保護者の理解度を高めるため、今後も年間を通して周知を図っていきたい。
○アンケート調査の学力向上への取組では、授業が「分かりやすい」と回答した生徒が、93％と昨年度と比べ3ポイント増加している。今後とも生徒一人ひとりの理解度を把握し、授業改善を行うとともに個別指導などの更なる対応策が必要であると考えている。昨年度は生徒の16％が「授業に積極的に取り組んでいない」と回答していたが、今年度は15％と1ポイント減少し、３年連続して意欲の向上が見られる。今後は更なる学習意欲の向上、進路決定率の向上や資格取得数の増加に繋げていきたい。
○進路指導については、昨年度は24％の生徒が「面談」について十分ではないと回答しているが、今年度は25％となり、1ポイント増加している。まだ３割弱近くの生徒が「十分ではない」と回答しているので、面談を十分に行える環境を整えていきたいと考えている。
本年度も企業の採用意欲が旺盛で求人数が増加し、就職選考解禁１回目受験で県内工業高校トップクラスの内定率９３％（昨年度９７％）を達成するなどし、１２月には就職内定１００％を達成した。進学では熊本大学１人、大分大学２人、鹿児島大学１人、鳥取大学１人、熊本県立技術短期大学校１人、九州職業能力開発大学校１人、熊本県立高等技術専門校１人の計８人が国公立大学・大学校に合格し、昨年度の５人から更に増加した。今後も、センター試験等にも対応した進学課外の更なる充実が必要である。公務員合格者は７人（京都府警１人、自衛隊６人）だった。公務員の指導については希望者が少ないものの、生徒の進路実現のためにも公務員課外についても充実していきたい。
○資格取得については、各科とも熱心に取り組み、ジュニアマイスターの取得者（特別表彰含む）は昨年度から２０人増えて１８０人であった。全国の優良校として学校表彰も受けることができた。
○校内環境美化については、９７％の保護者が「よく整備されている」と回答しており、生徒においても、９１％が「環境美化が良い」と感じており、いずれも昨年度より向上している。特に、今年度は教室棟の改修工事があり、教室の学習環境の改善や便所の洋式化等により、生徒・保護者の満足度も高まったものと思う。新しい学習環境において、ＩＣＴ等の授業も充実させるとともに、更なる環境美化に努めていきたい。
○今年度も生徒の活躍が多く見られた。部活動では、卓球部が全国大会出場を果たし、柔道部、卓球部、ラグビー部、水泳部、ソフトボール部、弓道部が九州大会に出場するなどの活躍が見られ、次年度の県高校総体での活躍を期待している。高校生ものづくりコンテストでは、２部門（電気工事・化学分析）で入賞した。化学分析部門の生徒は県大会で優勝し、九州大会に出場した。溶接競技大会では県大会で優勝し、九州大会への出場も果たした。県高等学校文化連盟写真専門部春季写真コンテストでは優良賞を獲得し、九州大会出場を果たし、前期写真コンテストでは優秀賞を受賞し、次年度全国大会出場が決定している。また、美術部の生徒が昨年度、最優秀賞を獲得し今年度の全国大会に出場した。ジャパンマイコンカーラリー2020県大会及び九州大会では、コンピュータ部の生徒が上位となり全国大会出場を果たした。熊本県工業高等学校生徒研究発表会では工業化学科の発表「八代産の晩白柚・い草を用いたゼロエミッションへの挑戦」が最優秀賞を受賞した。

６ 次年度への課題・改善方策

① 確かな学力の向上	○ ＩＣＴ活用授業の充実　○ アクティブラーニングの積極的活用　○ 各教科の授業研究の更なる充実
② 資格取得の取り組み	○ ジュニアマイスター取得増加に向け、各科が連携した指導体制の確立　○朝課外の内容充実と効率化
③ 地域への発信と連携	○ 学校案内や広報誌、ＨＰの充実と年間を通した計画的な広報活動　○ ものづくりや部活動等を通しての地域貢献
④ 進路指導体制の強化	○ 就職・進学・公務員の指導体制の強化及び企業との連携　○ 進路意識の高揚に向けた各種ガイダンスの工夫改善 ○ 国公立大学と公務員受験対策並びに組織的指導体制の強化　○ 家庭や関係部署との連携強化
⑤ 校内組織の充実	○ 人権教育推進に向けた指導体制の充実　○ 教育相談部（人権・特別支援）の組織内連携強化と関係機関との連携
⑥ 交通安全教育の徹底	○ 交通安全意識高揚に向けた講話　○ 自転車の交通ルールとマナーの徹底　○ 保護者と連携した交通安全教育の充実